

安全を見守る

「飲んだら乗るな！乗るなら飲むな！」

防災 桂川町防災講演会

地域防災のすすめ ～来たるべき自然災害に備える～

【講師】 たきもと こういち 瀧本 浩一 氏



山口大学大学院 理工学研究科 准教授
NPO 法人 ほうほうネット 理事長

東北地方太平洋沖地震から一週間後の3月18日、桂川町防災講演会が住民センターで開催されました。

◎はじめに

いつ来るのかわからないのが災害。したがって、まだ見ぬ災害に対して、今から少しずつでも地域防災の推進とその継続方法を考えておく必要があります。

◎地域防災の進め方・考え方

皆さんの地域での防災活動や災害時の対応への課題に対して、即解決できる手法は存在しません。なぜなら、地域によって地形や住民構成、習慣、そこを襲う災害の種類・規模もすべて異なるからです。そこで、皆さんの地域で「防災」を考えていただくためには、地域の「災（災害）」を知り、「防（防災）」を考えることが必要です。

◎地域を「面」でとらえる

- ①自分たちの地域のつくりを理解する。
山や河川の位置、避難経路、避難場所など
- ②予想されるハザードの範囲・被害程度を把握する（ハザードマップを活用する）。
浸水の範囲や土砂災害の範囲、地震の震度分布など
- ③対象地域でハザードにより発生する被害や特に危険な場所を知る。
蓋のない側溝、柵のない用水路、水の吹き上がる場所、斜面が崩れる場所、濁流が流れる場所、老朽化した家屋など

④要援護者の状態と居住位置、支援者の居住位置とハザードとの関係

深刻なハザードの場合は、そこからの避難が必要です。また、避難場所までの距離も確認しましょう。

①～④について、地図とハザードマップを用いて、地域の状況を「面」でとらえ、地域住民、自主防災組織等の関係者で情報を共有します。

◎地域を「時間」でとらえる

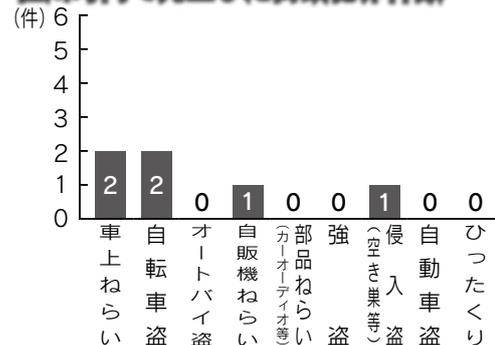
地震と風水害・土砂災害では、災害発生前後での時間の流れが異なります。地震は、揺れてからすべての災害現象が一斉に生じ、それと同時に様々な対応を行うという特徴があります。ですから地震防災は、事前に耐震補強、家具類の転倒防止などしておくことが必要です。それに対し、風水害は、台風や前線活動による豪雨が、徐々に状況が悪化していきます。しかし、この時点では人的被害は0なので、いかに水害・土砂災害の発生前に対応を完了させておくかが重要なカギとなります。

◎終わりに

防災活動は、地域活動の一つです。防災活動により、地域住民が元気になり、地域活動が活発化することもあります。毎日のウォーキング（散歩）のように、日々の生活の中に災害への備えを取り入れてみてはいかがでしょうか。

防犯

桂川町内で発生した街頭犯罪件数 (3月中)



平成 23 年 1 月～3 月 街頭犯罪件数累計：17 件

◆ バッグ・貴重品等、車内に置きっぱなしはダメ！

交通

交通事故発生状況 (3月中)

飯塚署管内【飯塚市・桂川町】	
発生件数	111 件 (337)
負傷者数	155 人 (469)
死亡者数	0 人 (0)
桂川町内で発生した交通事故	
発生件数	10 件 (21)
負傷者数	12 人 (26)
死亡者数	0 人 (0)

※ () 内は、平成 23 年 1 月～3 月累計



◎防犯・交通に関する問合せは

飯塚警察署
☎ 21・0110
桂川交番
☎ 65・0110

◎防災・消防に関する問合せは

桂川消防署
☎ 65・0321
桂川町役場 総務課
☎ 65・1100